

(2) 農林水産大臣賞 熊本県菊池市泗水町豊水「有限会社 有朋の里泗水」

生きがい生み出す直売事業
～エコファーマーが安全・安心を生産～

千原信彦



孔子を祀る孔子公園を背景に建つ養生市場（右）

1. 地域の概要

菊池市は、平成17年3月22日に菊池市、菊池郡七城町、旭志村、泗水町が合併、熊本県の北東部に位置し、面積は276.66平方^キ、人口5万2284人（平成20年8月末）の市。阿蘇の外輪山を源とする菊池川、合志川の恵みを受ける緑豊かな自然と古い歴史、伝統、文化を誇る町。医食同源を唱え、異色の医療活動をしている菊池養生園もすぐ近くにある。

県内一のシイタケ、菊池米、メロン、菊池牛などブランド化した農畜産物が多い。

主な生產品目は、米24億7千万円、野菜39億1千万円、果実2億9千万円、花卉10億8千万円と農業生産が盛んな地域である。

関係市町村の人口等

総人口（人）	年齢構成（％）			産業別人口比率（％）			
	20歳 ～39歳	40歳 ～64歳	65歳 上	第1次	うち農業	第2次	第3次
男 24,655	10.1	16.5	10.5	5.8	5.8	8.8	12.2
女 27,207	10.3	17	15.5	4.3	4.3	4.6	14.4
計 51,862	20.4	33.5	26	10.1	10.1	13.4	26.6

市町村面積・地域の面積

市町村面積	活動地域の面積	農地面積		
276.66 km ²	26.97 km ²	田3,138.39 ha	畑1,691.86 ha	その他309.29 ha

2. 活動の主体

有限会社「有朋の里泗水」(福村三男代表取締役社長 = 元菊池市長)は、菊池市が55%出資した第3セクターで、平成4年8月に、旧泗水町100年記念事業として建設された「孔子公園」の管理運営のため設立された。同公園は平成4年にオープンし、周辺整備計画として、道の駅、物産館などを建設、出品材の1つである物産館「養生市場」は平成13年から営業を始めた。

国道387号線バイパス沿いに位置しアクセス条件は良い。

孔子公園は、一時の popularity が大きく後退したが、直売所の養生市場の popularity は高まり、18年に140万人、19年には200万人の来場があるほど人気を集めている。

エコファーマーの養成



直売所に掲げられたエコファーマーの顔写真

養生市場の建坪は100坪。ここに地元産の野菜、果実、加工品が並ぶ。当初の課題は、いかに安定的に収集し安全・安心で新鮮な商品を販売するかの仕組み作りだった。このため、出荷協議会をつくり、会員が厳しい規律を遵守するよう指導した。とくに、安全・安心の農産物のブランドづくりのため、平成11年にできた「持続性の高い農業生産方式の導入促進に関する法律」に則った、持続性の高い農業生産方式に取り組む者(エコファーマー)の認証制度に積極的に取り組んだ。

現在は、出荷協議会員156会員のうち332名がエコファーマー(1人が複数の品目で認定を受けるため)で、今期も26名が申請中という。このエコファーマーには、その資材(3月に会員から注文を受ける)が、経費の6割が同社から補助されるのも特徴に挙げられる。これで減農薬・減化学肥料栽培を行う。

助成する資材の商品名を挙げると、ステビア、捕虫トラップ、ムシコンマルチ、パオパオ、サンネンネットなどで、虫害はほとんどこれらで防げるようだ。この費目は、「販売計画推進費」と名付けている。助成金額は年100万円という。一方、土壌検査への支援も行い、平成19年度139会員が受けた。これに伴い、会員はたい肥投入に熱を入れている。市内には畜産農家が多く、ほとんどは畜産農家との稲わらとの交換でたい肥を入手している。

この成果は、直売所の壁面に認証者全員の顔写真を掲げており、並ぶ商品には、エコファーマーシールが貼られて、消費者にアピールしている。この安全・安心が受けて、売り上げは平成19年で4億9600万円、入り込み客は42万人を超える。

加工品も目玉商品に



弁当づくりに忙しい加工グループ

生活研究グループがつくる弁当「道の駅弁」が人気。加工品や弁当には「緑提灯マーク」が付いているのも目を引く。道の駅弁づくりは、リピーター対策としても重視しており、広報活動を年2回実施するとともに、学校関係者、給食関係者、消費者にも参加してもらい、評価してもらおう。毎回、7～8グループが15点ほどの新作を発表する。

地産地消が合言葉だけに、地元産品にこだわり、手作りの「おふくろの味」が自慢だ。九州・沖縄「道の駅」主催の春秋に開く「道の駅弁フェア」で販売個数一位を誇る。

平成19年から従業員による加工活動も始めた。旬の野菜を使い惣菜開発に力が入っている。郷土食への関わりも熱心で、生活研究グループ「おてもやん」のリーダー宮崎さんは県が認定する「菊池うまかもん衆」の一人であり、たまり漬けの名人。道の駅弁、棟上げ式のパーティー用仕出しづくりな

どにグループを引っ張る。

3．鮮度が好評の学校給食

学校給食などへの納品は、中学1、小学校3、幼稚園1、保育園2、それに老人ホーム1の計8施設に1800食分を納める。週1回から始め、今は週3回、地元産の野菜が給食になる。納品時には、野菜に生産者の名前、地区名を明記し、子どもたちが知っているおばあちゃんらがいたら、給食時間はすごく盛り上がるという。保育園や学校の栄養士さんらは「旬のものが入るし、元気な野菜だから、子どもに好評。扱いやすく安心・安全な食べ物」と上々の評判だった。

この取扱額は296万円。

また、イベント（上通りビブレス広場、大にぎわい市、農業フェア）でも200万円以上を上げ、取扱総額は5億円になった。



少量多品目が栽培される会員の畑

生産関係で目立つことは、大規模農家ではなく、庭先農園からの出荷が多いこと。会員のうちのほとんどは兼業農家で、10～20坪程度からの生産物が店頭に並ぶ。しかし、2・5畝の土地を持つ坂本さん、1・5畝の村上さんのような農家もあり、減反分を野菜作にして出荷する。この坂本さんの場合年間30～40種づくり、村上さんは35種のエコファーマーでもある。直売所得有の少量多品目生産である。この生産方式にも楽しみがあり、「毎年新しい野菜に挑戦。これを市場に出して、消費者と話すのが楽しい」と村上さんはいう。

シシリアンルージュ、ピクニックコーン、アイスプラント、葉ゴボウといった新規野菜から、くまもとふるさと野菜とされる赤大根、茎ブロッコリー

もつくる。

ただし、個別の稼ぎは村上さんの野菜作で400万円程度と少ない。加工品を出す人は1000万円を超す人（19年で6人）もある。

田畑輪換が普及しており、耕畜連携も理想的な姿が見られる。

この栽培指導は、年3回、普及員を招いて指導を受けるが、将来的には専門家からの指導を受ける予定。

直売所等販売活動（併設するレストラン、加工等も含む）

	主な農産物等の種類	取扱量	取扱額（千円）	施設の場合の利用人口 （入込客）
平成15年	野菜・果物・花き・ 弁当	1,660,534 点	370,029	335,367
平成16年	"	1,669,592 点	388,094	352,662
平成17年	"	1,803,244 点	409,602	372,780
平成18年	"	1,942,653 点	443,239	395,026
平成19年	"	2,130,770 点	494,604	427,222

宮崎さんや村上さんは「70歳以上で、こんなに生き生きと働けるのは市場があってこそ」とお金以外の生きがいある生活を話している。高齢者や主婦らのモチベーションが上がったのは確か。生産意欲の高まりが地域を元気にしている。

4. 幅広い交流活動

消費者との交流は、直売所の売り場だけでなく、古代米の田植え、稲刈りなどの体験農業、養生農園での無農薬野菜の収穫体験、近隣の高校生を対象にした職場体験と幅広い。いろいろなイベントも活発に行われる。孔子公園を会場にした桜祭り、ふるさと夏祭り、祭孔大典への積極参加や支援、スポーツ大会（チャイルドサッカー、駅伝大会）での養生鍋サービス、グラウンドゴルフ大会も月1回行う。ある。その他ひょうたんの絵付け、教室、竹細工教室、紙飛行機大会、クリスマスリースづくり、孔子公園花いっぱい無料オーナー制度と数多い。

今年度から「孔子公園映画祭」も実施された。

5 . 課題

福村社長らによると、目標は売上金5億円、集客数45万人を挙げる。直売所を訪れた人は、鮮度に大いに満足しているため、リピーターというより常連客に成りつつあり、客数などは現在が42万7千人からすれば達成可能と見られる。ただ、客単価がこれほどの直売所も同じレベルだが、1000円程度であり、売上金を伸ばすためには、客単価の増加が望ましい。

客単価の上昇には、商品の単価アップと購買量の増加があるが、会員が高齢化しているため、冬場の商品、特にハウスものが少なく、単価アップは、そう期待できない。この限られた商品構成で、どれだけ購買意欲を上げられるか、今後に注目したい。